

第 4 回精華町子どもの食のあり方懇談会 会議録

名 称	精華町子どもの食のあり方懇談会[第 4 回]	
開催年月日 開催場所	平成 25 年 1 月 23 日 (水) 午前 10 時 00 分～午前 11 時 30 分 精華町立図書館 1 階 集会室 (精華町役場内)	
出席者名	委 員	(出席委員) 大谷貴美子、姫野良隆、曾原肇、瓦俊夫、北澤智、有城義浩 吉川博文、清水朝江、堀切珠美、小田英美、森田理恵、木原國夫
	事務局	(事務局) 太田教育長、永井総括指導主事、竹島学校教育課長 土井担当係長、下田栄養士
傍聴人	6 人	
配布資料	資料 1 「精華台小学校、山城中学校視察報告」 資料 2 「給食実施方式 メリットデメリット比較」 ・第 3 回精華町子どもの食のあり方懇談会 会議録	
議事の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会行事 (教育長挨拶) <ul style="list-style-type: none"> ・第 3 回懇談会会議記録の確認 (事務局) ・配布資料の説明 (事務局) 2 給食実施校の視察報告 3 協議 <ol style="list-style-type: none"> (1) 中学校給食の方式について (2) 精華町の中学校給食に期待することについて (3) 中学校にふさわしい給食について 4 閉会挨拶 	
会議の経過	別紙のとおり	

【第4回 懇談経過】

1. 開会

- ① 大谷会長の開会宣言の後、教育長の挨拶を行った。
- ② 第3回の会議記録の確認と配布資料の確認を行った。

教育長挨拶内容

おはようございます。本日はお忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。昨年9月14日に第1回目が開催され、これまでに3回行ってまいりました。それぞれの食を取り巻く状況、小学校での給食、中学校での食育の取組などについて懇談を行っていただき、11月26日に開催された3回目の懇談会では中学校給食のあり方についても議論していただいたところです。第3回目の終了時にこれまでの懇談会の内容のまとめを行い、委員の皆様を確認していただいた上で最終案を作成したいということでしたが、中学校給食のあり方について時間の関係もあり、議論がつくされなかったという感じがあります。そこで、十分議論できなかった中学校給食についてさらに議論する必要があるのではないかと考え、本日の懇談会を開催した次第でございます。また、本日の懇談会を開催するにあたりまして、中学校委員の皆様には、1月17日と18日に精華台小学校と山城中学校の給食の様子を視察していただいております。本日は、これらの視察にいった報告の資料と、それぞれの給食方式のメリットデメリットを比較した資料も用意しておりますので、これらを参考にしながら議論を深めていただき、中学校給食の方式や配慮する点などについて適切な方向性が出せますようによろしくお願いいたします。

2. 給食実施校の視察報告

○山城中学校の給食は、旧山城町にある小学校2校中学校1校、計3校の給食を賄うセンターで調理されている。旧山城町の給食はおいしいと評判で、食べてみたいという思いをもって参加した。センターから給食が運ばれ、配膳室に保管されているが、そこに生徒が取りに来て、各教室に持っていく形をとっていた。15分間の配膳時間を設けているということであったが、実際には10分ぐらいで準備ができていた。1年生に関しては、1学期の間は時間内にできないこともあったが、徐々にできるようになってくるということであった。教室まで運ぶ方法として、生徒が直接持って行った方が早く、エレベーターなどなくても対応できるということであった。また、給食を食べる時間として15分もうけてあり、非常に楽しそうにおいしそうに食べていた。量は均等に配らなくてはならないが、男女混ざった班で机を合わせて食べているので、その中で調節をして食べており、食べ残しも非常に少なかった。また、給食参観後に山城中学校の教頭先生に給食を実施するにあたっての課題等について伺った。生徒指導上の課題をもった学校であれば、メニューや配膳方法など実施上の課題が生まれてくるので、実施前にしっかり検討することが重要であるということであった。

○山城中学校で子どもたちの様子をみていると、班で机をあわせ、テーブルクロスを広げて仲良く食べていた。10名ぐらいで給食当番を行い、給食は盛り切りで配膳していた。最後にごはんが足りなくなったりしていたが、入れすぎた中から取って足りない分を補い、限られた時間の中でスムーズに給食準備を行っていた。気になったところは、給食室が少し狭かったことである。山城中学校は規模の小さな学校だが、それでも、時間が一時になるので混雑している状態であった。しかし、山城中学校の生徒は慣れもあると思うが、非常にスムーズにできていた。また、精華西中学校に置き換えてみると、規模が大きくなれば、さらに課題が生まれてくると考えられる。残食については、とても少なく驚いた。全校で小さなバケツに半分程度であった。これを見て、教室に残食バケツを設けず、残した生徒自ら給食室に持っていくのは、よい方法だと感じた。そして、何よりもおいしい給食であることが想像できた。

○小学校も中学校も訪問し、小学校では試食もしたがとてもおいしかった。ただ、小学校で食べたということもあり、量は少なく感じた。中学校の男子では、夕方の部活までもたないのではないかと思った。ただ、中学校で小学校と同じようにするには、生徒指導上多くの課題があると思う。それをどのようにしていくかが今後の課題であると思う。山城中学校では、今は落ち着いている現状があり、整然とした給食の様子であった。しかし、山城中学校の先生は、生徒指導と給食指導の大変さは比例するので、そのあたりは考えていかなければならないと話しておられた。小学校と中学校の違いは、放課後に部活動があることで、校時の問題がある。冬の間は部活動の時間がほとんどなくなるので、校時の面でも工夫が必要になってくると思う。

○小学校の給食を見て量が少ないということであったが、中学校の給食を見てどのように感じたか。

⇒中学校で3年生の男子生徒何人かに聞いたが、足りる時もあれば、足りない時もあるということであった。私が考えていたよりは、それほど量について不満はないように感じた。

○山城中学校の生徒たちは整然と給食を楽しんでいるという雰囲気であった。個人ではなく6人グループで顔を見合わせながら食べるということで、生徒たちの交流につながっているのではないかと感じた。単品ものについては、個数がはっきりしてくるので、和え物やサラダなどの分けるおかずでお願いしているということであった。山城町では小学校からセンター方式なので、同じ方式でスムーズにできているようである。しかし、精華西中学校においては、23クラスもあるので、給食準備をする時に配膳室の混雑が考えられる。今後、スムーズに給食ができるような工夫を考えなければならない。

○視察に行っていた委員の方々は、給食に対する理解と問題を感じて帰ってきてい

ただいたと思う。本日は、中学校給食の方式や配慮する点について適切な方向性を出したいというのが課題である。これから、精華町にふさわしい中学校給食にするにはどのようにすればよいかをみなさんに議論していただきたい。

3. 協議

1. 中学校給食の方式について

○精華台小学校の子どもたちは、当番の仕事もそれ以外の子どもたちも当番の言うことを聞いてしっかりとできている。6年生できちんとできている様子を見て、見学に来ていただいた先生も驚いておられた。中学生になった時に、せっかく自校方式で培われていたものがセンター方式になってどうなるのかが心配である。また、中学校独自の献立も自校方式なら中学生にあった栄養の確保ができるのではないかと思う。ただ、いろいろなデータの中で、用地確保が難しくなると思うので、センター方式になっても、自校方式で食べきた子どもたちが残念に感じないような給食にしてほしい。栄養教諭が中学生の運動量、生活にあった献立をたて、その献立から自分たちでも献立を考えることができるような給食を提供できればと思う。

○中学生に見合った中学生が残念に感じない給食の提供ということで、具体的に考えていることはあるか。

⇒人的なものを惜しまず、小学校の給食費のままではできないので、量、質ともに満足いくものにするためにも、町の方でも考えていただく必要があると思う。

○まず、おいしい給食を出すということが基本になると思うが、中学校に見合ったという部分で小学校と同じでなくてもよいと考えているか。

⇒やはり、同じものをたくさん食べることは限界があると思うので、もう一品増やすといった工夫が必要になる。献立作成が大変ではあるが、精華町には3名の栄養士がおり、中学校が給食になれば、さらに1名加わることになると思うので、そこでみんなで考えていけると思う。

○給食室に取りに来るとそのあたりが混雑するという話があったが、その点はどうか。

⇒以前、大きな学校に勤務していた時には、給食配膳員さんや給食部の教師、また栄養教諭も加わって、給食室で整備をしていたが、少し落ち着いていた時期でもあったからか、スムーズに取りにきていたように思う。

○保護者としては、中学校になったら、量を増やすよりも一品増やしてもらいたい。自校でもセンターでも今の小学校の給食のあり方を中学校に持ってきてほしい。中学校になっ

てできなくなるのではなく、小学校できちんと配膳していた感覚をそのまま持ち続けてできればという思いはあるが、そのために部活ができなくなるというのもかわいそうなので、時間の工夫をしなければいけないと思う。もしセンターになったとしても、教室で配膳されてからは、自校の給食室からでてきた給食と同じようにスタートできると思う。用地のこともあるので、保護者の立場から自校かセンターか言うことはできないが、町の方で考えていただき、今の小学校の食育、給食を持ってきていただきたい。その中でもし、センター方式で民間業者が入ってくると不安に感じることもでてくるのではないかと思う。

○精華台小学校の視察の報告の中に、給食ワゴンを教室の前の廊下に置いておくにあったが、小学校すべての学校で給食を廊下に置いているのか。

⇒精華町では、クラスごとに給食をワゴンにのせるという方式はどの小学校でも実施しているが、そのワゴンを教室の前までもっていくのか、配膳室においておくのかは、学校によってやり方が違う。また、給食をのせたワゴンは各教室のある階まで、リフトであげている。山城中学校のように、生徒が1階まで取りに来ることはないので、時間短縮になるが、新たにリフトを設置しなければいけない。

○保護者の立場で、いろいろな方式で悩んでいる。早期実施、配膳の点では時間短縮にもなるので、デリバリー方式がよいのかなという思いがある。もちろん、デリバリーといっても、精華町の栄養士さんが作成した献立で、栄養士さんが管理した食材であってほしい。前はセンター方式に話が傾いていたようだが、センターを建てるとしても配膳室があるのであれば、自校式とどのように違うのかを知りたい。やはり一番の希望は自校方式で、作ってすぐのものをいただけるのが理想である。

○精華町で給食センターを建てたとしても、配送時間は10分～15分以内であるので比較的作ってすぐのものを提供できるのではないかと思う。

○精華西中学校に敷地がないという問題はあるが、コスト面であまり変わらないようであれば、自校方式で実施してほしい。また、精華町らしい給食ということで、中学校給食が始まるにあたり、地域の給食の場として先生だけではなくボランティアの方にお手伝いいただいたり、高齢者の方や給食の野菜を作ってくださっている農家の方と一緒に給食を食べたりする場を設けることができればよいと思う。

○デリバリーとの関係はどうなるか。

⇒デリバリーで地元の食材が使えるということがあれば、デリバリーでもこのような取組ができると思う。

○精華西中学校のことを考えたときに、規模の大きな学校であるので、780食ぐらいを

つくらなければいけない。理想では自校方式がよいと思うが、現実問題としてそれだけの給食をつくる給食室を作ることは物理的に無理なのではないかと思う。また、精華西中学校以外の他2校の様子を考えると、精華南中学校でも難しいと思う。精華中学校では改築も控えているので可能であると思うが、給食を開始するにあたり、3校足並みを揃えないと、不公平感が出るのではないかと思う。そのように考えるとセンター方式が一番よいと考える。

○近頃の給食施設は発達しており、国の基準ではHACCP対応が徹底しているので、自校式で小さな給食室で作るよりも、センターできっちりとした衛生管理のされた給食を作るというのも一つの方法である。また、センターだからまずい、自校だからおいしいという問題はなくなってきている。さらに、親子方式であれば、小学校と親子になるので中学校独自の献立をたてるのは難しくなる。

2. 精華町の中学校給食に期待することについて

○精華町にふさわしい中学校給食と言われると難しいが、給食ありきで話をすすめていくということでは、一日でも早く給食を開始してほしいという意見もあると思う。また、この懇談会だけで結論を出すのは難しいことである。小学校では自校方式で、中学校でセンター方式やデリバリー方式に変わっても、小学校6年間に受けた食育が途切れることを防ぐことができれば問題はない。栄養教諭の方の指導を受けた子どもたちが引き続いて中学校へ進学する。人が変わるわけではないので、その面では先生方には負担があると思うが、食育面では努力すればできることであると思う。しかし、実際施設の問題となると、精華西中学校のような規模の大きな学校で給食室を設けることは難しい。給食をするという前提であればセンター方式で身近な食材を使って精華町独自の献立を考え、愛情弁当に変わる3年間の思い出に残る給食であってほしいと思う。

○精華町らしさとは難しいが、地元の食材を使っているということはもちろん、食育のあり方として保育所、幼稚園から家庭地域を通して食育を大事にしていくところが精華町らしいということではないかと思う。給食の方式として、まず学校が荒れた時の給食指導が難しいことを保護者に理解していただき、給食補助員を付けていただくことが重要である。また、自校とセンターとどちらがよいかという点では、細かい食育指導の面では自校がよいと思うが、中学校の現状を考えると実施までの時間短縮が図れるセンター方式がよいのではないかと思う。栄養面、味の面では昔に比べてセンター方式もおおいくなっているのも、実際、時間の問題等を考えるとセンター方式がよいのではないかと思う。

○中学校が荒れた時、給食時間に保護者の支援を求めることは、一つのアイデアとしてよいと思う。

○給食委員会の中で、保護者から意見を聞くこともあるが、不満やこうしてほしいというようなことはなく、子どもたちは満足して給食を食べて帰ってくると聞く。この意見が出るのは、小学校に安心して給食を任せていただいているからと思っている。中学校でもこれを継続していき、それに合わせて食育も発展させていくことが大事である。ある中学校では郷土料理を体験させて、その地方で大事にされている食文化を子どもたちに継承していくという食育の取組をされていた。精華町でも食生活改善委員会の方のメニューを子ども祭りで調理されていたが、そのようなメニューや地元の食材を使ったメニューを取り入れた献立も提供できる給食であればいいと思う。今現在も小学校の給食で、6年生が実際に考えた献立を給食として提供しているが、この取組では、中学校であればさらにメニューを考える力がついてくると思うので、これらのメニューも取り入れながら給食をするのもよいのではないかと。また、中学校では、温野菜やからあげなどソース類は自分で選ぶことも可能ではないかと考える。

○食育という点に焦点を合わせると自校方式が一番理想である。栄養教諭がその学校にいて、調理員が学校の敷地内にいる。メニューを考える人、作る人が子どもの近くにいることでメッセージが伝わると思っている。ただ、それはなかなか実現することは難しく、栄養教諭が配置されている学校とそうでない学校があり、食育に関わって温度差があるというのが現実である。実際には、様々な問題からセンター方式の方向で進んでいるが、センター方式であっても、献立を立てた栄養教諭がきちんと作り手のメッセージを伝えるということをしていかなければいけないと思う。ただ給食を提供するだけでは、荒れた学校では特に指導が難しくなるのではないと思う。また、自校方式であっても、センター方式であっても時間の問題は変わらない。中学校での部活を含めた時間確保を考えると難しいと思う。

○初期投資と後の人件費のことを考えるとセンター方式の方がよいと思う。幸い、近い場所にセンターを建てることのできるため、作っている人の顔はセンター見学に行ったり、話を聞いたりすることで色々な交流ができると思う。また、時間の問題もあるが、食べる時の方式として各教室に運ぶ方法と食堂のようなところで配膳員さんが配るという方法がある。食はコミュニケーションの場にもなるので、みんなで楽しく食べることはとても大事である。

○希望としては、各中学校にワゴンを上げ下げするエレベーターをつけてほしい。クラスによってはさぼる子どもでてくると思う。そのような子たちが一階まで行って、給食を取りに行くか不安がある。エレベーターで自分の教室のある階に給食が届いていれば、スムーズに給食が始まるのではないと思う。

○子どもたちが考えたメニューを反映させた給食や、リクエスト給食も取り入れてほしい。
○小学校より量が増えるので、中学校ではもちろん給食費は上がるが、リクエストを増やすとさらに給食費が上がると思う。

○AかBかぐらいの選択であれば、給食費はそれほど上がらないと思うが、配膳の時にややこしくなるのではないか。また、数が多くなるとその準備が大変になると思う。

○小学校では、セレクト給食として学期に1回ぐらい実施している。子どもたちが考えた献立は6年生を対象にやっていて、今年で6回目ぐらいになる。子どもたちも楽しみにしており、これらのメニューの中には、精華町の定番メニューになったものもある。

3. 中学校にふさわしい給食について

○本懇談会の流れとしては、センター方式で精華町らしい他にないような給食、小学校給食の質を落とさない給食の提供を目標とするということであるが、課題として今の弁当を残していきたいというような話もあったが、その点はどうか。

⇒中学校でお弁当が給食になっても、親の愛情は変わらないと思う。

⇒月に1回お弁当になると、忘れる人もでてくるのではないかとと思う。

○給食ありきの会議ではないということで、私もいろいろな意見を述べていたが、議論の中で給食の方向となり、実際に給食の様子を見せていただき、給食の良さも伝わった。ただ、精華町にふさわしいとか小学校の給食をそのままという話があるが、やはり中学校にふさわしい給食ということテーマに考えていかなければいけないと思う。小学校でできたことが中学校でできるわけではない。給食だけではなくいろいろなことが違う。小学校の良さを継承していく部分も必要であるが、小学校は小学校の良さ、中学校は中学校の良さを引き出すという考え方でいかなければ、同じことをするのは難しいと思う。家庭においても子どもが成長していくにあたって、小学校の時の様子と違い中学校になってからのやりにくさは保護者との話の中でもでてくる。それと同じように学校でも中学校ではいうことを聞かなくなってくる。これは駄目なことではなく、成長段階として当然のこととして見ている。この点からも中学校にふさわしい給食のあり方として進めていくべきだと思う。また、弁当を保護者の方が頑張って作っている。子どもたちにも常々感謝するようと言っているが、やはり給食よりも弁当の品数が多いので、給食でもこれが反映されるようなものを提供してほしい。また、小学校を見学した中で、廊下にワゴンが置いてあったが、これは中学校ではできないことではないかと思う。中学校では、授業中でも廊下をウロウロしているというような状況も考えられる。その時に無人の給食ワゴンが置いてあることはありえないことで、中学校にふさわしい配膳の仕方も考えていかなければいけない。たとえば、各階までは運ばれているが、鍵のかかるところにおいておくというようなこと

も必要になってくると思う。悪いイメージをつけたくはないが、それによって困るのは生徒たちである。給食がなくなって食べるものがなくなって困るのは生徒たちである。また、山城中学校の先生の話の中で、給食のつきものが多くなると生徒指導上の問題もでてくるということであった。様々な考えられることに対して指導し、未然に防ぐように努力するが、すべてのことにおいて対処することは難しい。このようなことが、一部中学校の現状であるということを知ってほしい。ほとんどの子が小学校と同じことをやってもできると思うが、それが難しい生徒もいる。このような課題があるということを知ってもらいたい。給食については実施の方向で積極的に考えていきたいと思っているが、どのような方法でやっていくかはこの場だけでは決められない。また、方式についてはセンター方式がいいのではないかと考える。部活動のことを考えると各学校に給食室が建設されると活動スペースが削られるということになるので、学校敷地内でないところに建設されるのが一番であると思う。

○どんな形であれ、就労対策だけのものになってはならない。朝、昼、夜の食事が充実していることが大事であるので、朝も夜も豊かな食卓になってほしい。

4. まとめ

○委員の皆様相互に理解が深まったのではないかと思います。懇談会としては、中学校給食についていろいろな面から検討し、センター方式が良いという意見でまとまったと思う。

5. 今後の予定（事務局より）

○第4回目の会議の内容も前回までと同様に会議録としてまとめ、委員の皆様にご確認ください。また、第1回から第4回までの懇談会の意見をまとめた報告書も各委員の皆様にご確認ください。その上で懇談会の報告書として教育長へ提出していただきます。そして、懇談会から提出いただいた報告書をもとに行政が責任をもって最終的な方向性を出していきたいと考えています。その後、住民の方の意見もいただきたいと思っています。また、これからの中学校給食については、3中学校の先生方と十分話し合い、どのようなものにしていくかを検討していきたいと考えています。